

持ち上げないケアは大切と言われているものの、 何故 世の中に余り普及しないのか？

令和5年 2月11日(土)

千葉県 地域リハビリテーションフォーラム

全国福祉用具 相談・研修機関協議会 全国会議

全国福祉用具プランナー研究ネットワーク

代表 奥山匡史

在宅介護で介護リフトが浸透しないわけ

よく、多方面で囁かれている訳(施設の意見?)

◆導入コストが高額である **費用対効果が薄い。もったいない。**

◆「介護は「ふれあい」と「まごころ」で行うもの」という信念

そういう宗教団体が経営する施設は避ける。自衛しかない。

◆「リフト使用は時間と手間がかかる」という認識

・**リフトを運んでくる時間 安全と時間のバランス**

リフトを運んでくる ⇒ 設える ⇒ 被介助者を移す

⇒ リフトを元の場所に戻す ⇒ 被介助者を目的の場所に移動する

・**スリングシートを掛け外しする時間 実測時間の差と満足とのバランス**

◆操作が難しい。覚える時間がない。資格が必要。

作法が七面倒臭い。資格を取らないと触らせてもらえない。

在宅介護で介護リフトが浸透しないわけ

奥山が現場で実際に耳にする理由

- ◆ 体力的に上手に使う自信がない。 **操作する人の年齢的問題**
- ◆ 機械は苦手。 **手順を覚えられない。段取り良くできない。**
- ◆ スペースがない。 **ベッド2台分の面積プラスアルファの隙間が必要**
- ◆ 改修工事に踏み切れない。 **間口拡張、床材変更、段差解消など比較的高額になる**
- ◆ 家具の移動が困難 **移動させる場所がない。廃棄に踏み切れない。**
- ◆ 被介助者が嫌がる、痛がる、怖がる。暴れる。 **認知症？わがまま？**
- ◆ そもそも知らない、初めて見たが、ごつい、怖じ気づく。 **大げさ。邪魔。**
- ◆ ヘルパーに任せている。 **必要であればヘルパー事業所が用意するべき。**
- ◆ 価格が高い。 **もったいない。仕事でやっているのではない**

福祉用具導入。施設と在宅の違い

	施設	在宅
導入目的	本人の安楽 介助者の安全 法人の経営方針*	本人の安楽 介助者の安全
導入指示・提案 *	理事会・施設長	ケアマネジャー・福祉用具事業所
導入決定・支払い *	法人	本人・家族
使用者 *	介護員・看護師(基本誰もが操作する)	家族・介護員(限定される)
使用環境	スペース。床材等、比較的整っている	整理整頓、住宅改修が必要な場合がほとんど
使用期間 *	連日、長期にわたって頻繁に使用	日にゼロ～数回、比較的短期間使用
使用者の練度	高い(使用回数が多い) 学習の機会多い(無料) 高額意欲高い スキルアップは収入アップにつながる 周囲は相談できる人だらけ	低い(使用回数が少ない) 学習の機会が少ない(有料が多い) そもそも習いに行こうという意志がない 相談できる人は、ほぼいない、 万が一いても、類似環境で知識低い

すでに介護リフトを使っている方から聞く不満

◆ 機器に対する希望

床走行リフト

もっと軽い力で動かせないか？ 本体自体が電動で動かせないか
本体を動かしたとき、吊るされている人が揺れない工夫はないか

アーチ型リフト

横移動も電動で出来ないか？

◆ 価格の問題

レンタル価格は、もう少し安くないか？

床走行リフト 平均1300円 ⇒ 1000円以下

アーチ型リフト 2000円～5000円 ⇒ 1000円～2000円

◆ 使用に対する希望

自分一人で気軽に装着して外せるようにならないか。